

1. 件 名：新規制基準適合性審査に関する事業者ヒアリング（島根2号機 設計及び工事計画）【271】
2. 日 時：令和4年9月14日 14時00分～18時00分
3. 場 所：原子力規制庁 9階D会議室（TV会議システムを利用）
4. 出席者（※・・・TV会議システムによる出席）

原子力規制庁：

新基準適合性審査チーム

忠内安全規制調整官、江崎企画調査官、三浦主任安全審査官、千明主任安全審査官、服部(正)主任安全審査官、植木主任安全審査官、藤川安全審査官、谷口技術参与

技術基盤グループ 地震・津波研究部門

小林技術研究調査官

事業者：

中国電力株式会社

電源事業本部 部長（電源建築） 他6名

電源事業本部 担当部長（原子力管理） 他11名※

中部電力株式会社

原子力本部 原子力土建部 設計管理グループ 担当※

電源開発株式会社

原子力事業本部 原子力技術部 原子力建築室 課長代理※

## 5. 要旨

(1) 中国電力株式会社から、島根原子力発電所2号機の設計及び工事の計画認可申請書のうち、工事計画に係る補足説明資料（原子炉建物の地震応答計算書に関する補足説明資料等）について、令和4年9月8日の提出資料に基づき説明があった。

(2) 原子力規制庁から、主に以下の点について説明等を求めた。

### 【原子炉建物の地震応答計算書に関する補足説明資料】

- 鳥取県西部地震の観測記録のシミュレーション解析について、床柔軟性を考慮したモデルによる解析結果を併せて示した上で、床剛モデルの妥当性を説明すること。
- 「水平2方向及び鉛直方向地震力の組合せに関する検討」に用いる3次元FEMモデルについて、設計用質点系モデルでは考慮していない補助壁を考慮することの妥当性を説明すること。
- 建物剛性及び地盤物性の不確かさを考慮した場合の建物－機器連成地震応答解析結果について、今回工認モデルと、建物剛性と地盤物性の変動を考慮したモデルの固有値解析結果の比較を追加するとともにその考察を示して説明すること。また、地震応答解析結果の比較に対する考

察を説明すること。

- 建屋の応答変動に対する機器・配管系の影響評価で用いる、刺激係数を考慮した条件比率による簡易評価について、地震応答解析による詳細評価よりも保守的な結果となる理由を説明すること。
- 改造工事に伴う重量増加による建物－機器連成地震応答解析結果について、今回工認モデルと、補強反映モデルの固有値解析結果の比較を追加するとともにその考察を説明すること。

(3) 中国電力株式会社から、本日説明等を求められた内容について了解した旨の回答があった。

なお、本ヒアリングについては、事業者から一部対面での開催の希望があったため、「まん延防止等重点措置の解除を踏まえた原子力規制委員会の対応」(令和4年3月23日 第73回原子力規制委員会 配布資料2)を踏まえ、一部対面で実施した。

## 6. その他

提出資料：

なし